

1. 本誌の目的

- 1) 理学療法学および関連する分野の研究を公表し、理学療法学を発展させる。
- 2) 理学療法士の卒後継続教育に資する教育的な論文を掲載する。
- 3) 理学療法の発達や発展に関する記録や資料を掲載する。

2. 記事の種類

- 1) 研究論文：新規性および独創性があり、明確な結論を示した論文。
- 2) 症例研究：症例の臨床的問題や治療結果について科学的に研究を行い、考察を行った論文。
- 3) 短報：研究の速報・略報として簡潔に記載された短い研究論文。
- 4) その他：総説、症例報告、実践報告など学術誌編集委員会で掲載が適切と判断された論文および記事。（なお、症例報告とは症例の治療および経過などについて論理的に提示し、考察を行ったもの。実践報告とは、理学療法の研究・教育・臨床等の実践の中で、新たな工夫や介入、結果等について具体的かつ客観的に情報提示し、その内容が有益と判断されたもの。）

3. 投稿者の資格

筆頭著者が千葉県理学療法士会会員であることを原則とする。学術誌編集委員会が必要と認めた場合は、会員外の著者に投稿を依頼することができるものとする。著者資格については註1を参照すること。

4. 投稿原稿の条件

投稿原稿は、他誌に発表、または投稿中の原稿でないこと。本規程および執筆規程に従って作成すること。

5. 投稿承諾書

著者の論文への責任および著作権譲渡の確認のため、別紙の投稿承諾書に自筆による署名をして投稿の際に添付すること。

6. 利益相反

利益相反の可能性のある事項（コンサルタント料、株式所有、寄付金、特許など）がある場合は投稿時に書面で報告すること。なお、利益相反に関しては「厚生労働科学研究における利益相反の管理に関する指針」（註2）を参照し、別紙の利益相反自己申告書に自筆による署名をして（著者全員分）投稿の際に添付すること。

7. 著作権

本誌に掲載された論文の著作権は、一般社団法人 千葉県理学療法士会に属する。また、本誌に掲載された論文はオンライン公開される場合がある。

8. 研究倫理

ヘルシンキ宣言（1964年採択、2013年改正）ならびに「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（文部科学省、厚生労働省及び経済産業省、2021年制定）など医学研究に関する指針（註2）に基づき対象者の保護には十分留意し、説明と同意などの倫理的な配慮に関する記述を必ず行うこと。また、研究にあたり、所属研究機関あるいは所属施設の倫理委員会ないしそれに準ずる機関（註3）の承認を得た場合には、倫理委員会名および承認番号（または承認年月日）を必ず記載すること。

9. 原稿の採択

原稿の採否は複数の査読者の意見を参考に学術誌編集委員会において決定する。査読の結果、編集方針に従って原稿の修正を求めることがある。修正を求められた場合は、指定期限内に修正稿を再提出すること。提出期限を超過した場合は新規投稿論文として扱われる。また、必要に応じて学術誌編集委員会の責任において字句の訂正を行うことがある。

10. 校正

著者校正是原則として1回とし、大幅な文章および図表の変更は原則として認めない。

11. 掲載に関する費用

規定の分量の範囲内までは無料掲載するが、大幅に超過した場合は超過分に要した費用を徴収する。カラー掲載は実費負担とする。詳細については学術誌編集委員会へ問い合わせること。

12. 別刷

別刷は30部を無料で贈呈する。著者の希望によりそれを超える部数については実費を徴収する。

13. 原稿送付期限

原稿は随時受け付けるものとする。ただし、年度内の雑誌発行に掲載を希望する場合は、原則その年度の10月末日までに送付されたものとする。

14. 原稿送付方法および連絡先

- 1) 原稿送付方法は原則として、投稿原稿一式を電子ファイルにて電子メールに添付して送付すること。投稿承諾書、チェック票、利益相反自己申告書（筆頭著者だけでなく共同著者を含めた全著者分）は写真やスキャナーで取り込み、JPEGやPDFファイルにすること。
- 2) 論文本文の原稿については、著者情報の記載が含まれた正原稿と著者情報を除いた副原稿（査読用）を1部ずつ提出すること。その際、オリジナルのファイルとPDFファイルを1部ずつ作成・添付すること。
- 3) 添付メール送付が困難な場合、CD等のメディアにコピーして下記まで郵送すること。
- 4) 原稿送付先および連絡先
〒260-0013 千葉市中央区中央1-11-1
千葉中央ツインビル1号館1005号室
千葉県理学療法士会学術誌編集委員会
E-mail: chiba-rpt@crest.ocn.ne.jp
電話: 043-301-3065

註1：国際医学雑誌編集者委員会：生物医学雑誌への投稿のための統一規定 (http://www.icmje.org/urm_main.html) を参照すること。

註2：厚生労働省：研究に関する指針について (<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyoku/i-kenkyu/index.html>) を参照すること。

註3：日本理学療法士学会：研究倫理 (<http://jspt.japanpt.or.jp/shinsa/>) を参照すること。

1. 論文の構成

- 1) 標題：内容を具体的かつ的確に表し、できるだけ簡潔に記載する。用語は本文に用いた言語とし、キーワードを含むように配慮する。原則として略語・略称は用いない。
- 2) 著者名：共同著者は当該研究・執筆に寄与するところの多い人を必要最小限に記載する。なお、著者資格については統一規定（註1）を参照すること。
- 3) 要旨：和文「目的」「方法」「結果」「結論」について項を分けて簡潔に記載する。
- 4) キーワード：標題および要旨より抽出し、不十分な場合は本文から補充する。国際的に広く通用する言語又は日本語で表示する。
- 5) 本文：
 - ①はじめに（序論，緒言）：研究の背景，臨床的意義，研究の目的，取り扱っている主題の範囲，先行研究との関連性の明示などを記述する。
 - ②対象および方法：用いた研究方法について第三者が追試できるように記述する。倫理的配慮は、投稿規定8. 研究倫理に従って記述すること。
 - ③結果（成績）：研究で得られた結果を本文および図表を用いて記述する。データは，検証，追試を行いやすいように図（グラフ）よりも表にして数値で示す。
 - ④考察（分析）：結果の分析・評価，今後の課題，などを記述する。
 - ⑤結論：研究で得られた結論を 200～300字で簡潔に記述する。内容が要旨の重複する場合，もしくは紙面に限りがある場合は省略しても構わない。
 - ⑥謝辞：著者資格には該当しない研究への貢献者，および助成金受給については謝辞に記載する。
- 6) 文献：引用文献のみとする。

2. 投稿原稿の構成

- 1) カバーレター，表紙頁，著者頁，和文要旨（著者名，所属は不要），本文，文献，図表，図表の説明文，補遺（Appendix）で構成する。ただし，英文要旨も別に添付されていれば受け付けるものとする。
- 2) 原稿はA4用紙の設定とし，書式は，余白25mm，1段組（40文字×30行），12ポイント明朝体，英数文字は半角Times New Romanで記載すること。
- 3) 原稿にはページ番号（最下部中央）と本文左側にページ毎に，1行ごとに行番号を振ること。

3. 原稿の規程分量

研究論文，症例研究は，要旨・文献・図表を含んで原則として刷り上がり 6頁（400字詰め原稿用紙30枚・12,000字相当）。短報は要旨・文献・図表を含んで原則として刷り上がり 4頁（400字詰め原稿用紙 20枚・8,000字相当）。その他は要旨・文献・図表を含んで原則として刷り上がり 5頁（400字詰め原稿用紙 25枚・9,600字相当）。図表は，刷り上がり 1/4頁大のものとし，1個を400字と換算すること。

4. 要旨

論文には和文の要旨（400字以内）をつけること。原則，和文要旨は必ず記載するが，英文要旨の併記も可能とする。英文要旨がある場合は，原則としてネイティブ・スピーカーの校閲を著者自身の責任で受けること。

5. カバーレター，表紙頁および著者頁

カバーレターは，論文原稿とは別に作成し，投稿の際に添付すること。論文には表紙頁および著者頁をつけること。

- 1) カバーレターには，標題，希望する記事の種類，研究の必要性，研究の目的および主な結果，研究結果の臨床的意義を記載すること。
- 2) 表紙頁には，標題，英文標題，希望する記事の種類，キーワード（3個），本文ページ数，図表枚数，原稿文字数（図表含む）を記載すること。
- 3) 著者頁には，著者名（共同著者を含む），職種と学位（略称可），所属名，英文の著者名（共同著者を含む），英文の所属名を記載すること。また責任著者連絡先を別に記載し（通知文書や校正原稿をやり取りするため），責任著者名，所属名，住所，電話番号，個人のE-mailアドレスを明記すること。論文が採択された際は，責任著者連絡先の所属・住所を公開するため，実際の連絡先と公開の連絡先が異なる場合は，その旨明記すること。
- 4) 査読用のため副原稿は，正原稿の著者頁にある著者情報（共同著者を含む著者名，所属名等）を全て削除した論文を一式作成し，送付すること。

6. 図表

図・写真・表：図・表は本文に出てくる順に，それぞれ一連番号をつける。グラフィック表現および写真は図に含める。図の番号および表題は図の下に，表の場合は表の上につける。図・表の転載は投稿前に著者の責任で転載許可をとり，許可書を提出すること。図表の説明（キ

ャプション)は図表の後に頁をあらたにして記載すること。スライド図・表は投稿用に作成し直すことがある。原則として、図・写真・表は白黒で作成すること。必要に応じてカラーでの掲載も受け付けるが、実費負担とする(投稿規定 11. 掲載に関する費用を参照すること)。

7. 文献

学会抄録や勉強会の資料は原則として引用を認めない。但し、研究を遂行する上で必要な場合などはその限りではない。

文献を引用する場合は、本文中の引用箇所の右肩に肩番号を記載すること。連番の場合は「- (ハイフン)」で繋げること。

[例] 「小室ら¹⁾によると・・・」
「・・・という説もある²⁻⁴⁾⁶⁾。」
「Ramachandranら⁸⁾は・・・」

引用文献は本文の引用順に並べる。雑誌の場合は著者氏名、論文題目、雑誌名、西暦年号、巻、頁(最初-最終)の順に書き、単行本の場合は著者氏名、書名、編集者名、発行所名、発行地、西暦年号、頁を記載する。文献名の省略は米国国立医学図書館(註2)の方法に従うこと。引用文献の著者氏名が3名以上の場合には最初の2名を記載し、それ以降は「他」や「et al.」とすること。

[例]

- 1) 宮本謙三, 竹林秀晃, 他: 加齢による敏捷性機能の変化過程—Ten Step Testを用いて—. 理学療法学. 2008; 35: 35–41.
- 2) Tompkins J, Bosch PR, et al.: Changes in functional walking distance and health-related quality of life after gastric bypass surgery. *Phys Ther.* 2008; 88: 928-935.
- 3) 信原克哉: 肩—その機能と臨床—(第3版). 医学書院, 東京, 2001, pp. 156-168.
- 4) Kocher MS: Evaluation of the medical literature. Chap 4. In: Morrissy RT and Weinstein SL (eds): Lovell and Winter's Pediatric Orthopaedics. 6th ed, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2006, pp. 97–112.
- 5) 名郷直樹: EBMの現状と課題, エビデンスに基づく理学療法活用と臨床思考過程の実際. 内山 靖(編), 医歯薬出版, 東京, 2008, pp. 18-38.
- 6) 厚生労働省ホームページ 障害者白書平成 23年度版.
<http://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/h23hakusho/zenbun/index.html> (2011年 12月 19日引用)
- 7) Abood S: Quality improvement initiative in nursing homes: the ANA acts in an advisory role. *Am J Nurs.* 2002 Jun [cited 2002 Aug 12]; 102(6): [about 1 p.]. Available from: <http://www.nursingworld.org/AJN/2002/>

june/Wawatch.htmArticle

- 8) Zhang M, Holman CD, et al.: Comorbidity and repeat admission to hospital for adverse drug reactions in older adults: retrospective cohort study. *BMJ.* 2009 Jan 7;338:a2752. doi: 10.1136/bmj.a2752. PubMed PMID: 19129307; PubMed Central PMCID: PMC2615549.
- 9) Cancer-Pain.org [Internet]. New York: Association of Cancer Online Resources, Inc.; c2000-01 [updated 2002 May 16; cited 2002 Jul 9]. Available from: <http://www.cancer-pain.org/>.
- 10) American Medical Association [Internet]. Chicago: The Association; c1995-2002 [updated 2001 Aug 23; cited 2002 Aug 12]. AMA Office of Group Practice Liaison; [about 2 screens]. Available from: <http://www.ama-assn.org/ama/pub/category/1736.html>

8. 数量の単位

単位は原則として国際単位系(SI単位)を用いる。長さ:m, 質量:kg, 時間:s, 温度:°C, 周波数:Hz等。

9. 略語

略語は初出時にフルスペルあるいは和訳も記載する。

10. 機器名の記載法

機器名は、「一般名(会社名, 製品名)」で表記する。なお, 統計ソフトは「製品名, バージョン番号」とする。

11. チェック票

投稿に当たっては, 漏れの無いように別紙の「投稿論文チェック票」で確認・記載し, 添付すること。

12. その他

- 1) 必要がない限り, 表に縦線は使用しないこと。
- 2) 図は白色紙に記載し, 線画の太さを1mm以下の線とする。写真は原寸印刷が可能のように, 横は, 8cmまたは16cmのいずれか, 縦は9cm以下の大きさとする。
- 3) 原稿には, 表紙を含めページ数を必ず記入する。

註1: 国際医学雑誌編集者委員会: 生物医学雑誌への投稿のための統一規定 (http://www.icmje.org/urm_main.html) を参照すること。

註2: 文献の引用例7)~8)は英文電子ジャーナル, 9), 10)は英文ホームページの引用例である。詳しくは以下の米国国立医学図書館ホームページを参照すること。
http://www.nlm.nih.gov/bsd/uniform_requirements.html